

令和3年度第2回福岡県がん対策推進協議会議事録

日時: 令和3年10月25日(月)17:00～

場所: 県庁10階南棟 行政特1会議室

※議事録の文章は、実際の発言の趣旨を損なわない程度に、読みやすく整理したものです。

(司会)

定刻になりましたので、「令和3年度第2回福岡県がん対策推進協議会」を開催させていただきます。本日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ハイブリッド形式での実施とさせていただきます。委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会進行を務めます、がん感染症疾病対策課がん対策係長の宗でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、開会に当たりまして、当課課長の田中より、一言、御挨拶申し上げます。

(田中がん感染症疾病対策課長)

がん感染症疾病対策課長の田中でございます。

本日は、大変お忙しい中、がん対策推進協議会にご出席いただき、ありがとうございます。委員の皆様方には、日頃より本県のがん対策の推進にご理解・ご協力をいただいておりますことを、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

また、この度の新型コロナウイルス感染症の治療、感染拡大防止、それぞれの立場からご協力をいただいております。ここに改めて深く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

感染拡大防止ということで、本来であれば委員の皆さまと対面で開催させていただくところですが、第1回目は書面回議とさせていただきましたが、がん対策の推進に取り組む登録事業所の中から、優れた取組を行っている事業所の表彰についてご議論いただいたところであります。

本日、第2回目ということでございまして、「第3期福岡県がん対策推進計画の進捗状況」「第3期福岡県がん対策推進計画の中間評価」「がん診療連携拠点病院等の推薦」について、ご協議いただきたいと思います。

また、報告事項として、「小児がん拠点病院」について、九州大学大学院医学研究院の大賀教授より、ご報告いただくこととしております。

限られた時間ではございますが、どうぞ、忌諱のないご意見をいただくようお願いいたします。開会のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

ここで、今回新しく委員にご就任された方を、事務局よりご紹介させていただきます。

福岡県市長会から宗像市長の伊豆 美沙子様に、新たにご就任いただいております。なお、本日は所用により御欠席となっております。また、大山委員、松永委員におかれましても、同様に御欠席のご

連絡をいただいております。

続きまして、事務局を紹介します。がん感染症疾病対策課課長補佐の甲斐でございます。課長技術補佐の松田でございます。なお、保健医療介護部医監の佐野も参加させていただきます。

本日の会議は新型コロナウイルス感染防止の観点から協議会の傍聴を行わないこととします。

また、リモートでご出席の委員の皆さまにおかれましては、ご発言の時のみマイクをオンに、それ以外は、マイクをオフの状態をお願いいたします。

なお、本日の議事内容につきましては、議事終了後、県のホームページへ掲載予定となっておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

では、議題の審議にあたりまして、事前に配布しております資料の確認をさせていただきます。

〔配布資料の確認〕

(司会)

それでは、これからの議事進行につきましては、本協議会会長であります、松田会長にお願いしたいと思っております。松田会長よろしくをお願いいたします。

(松田会長)

皆さんこんにちは。それでは、会議次第に沿って、進めさせていただきます。

早速、議事に入らせていただきます。まず始めに、議題(1)「第3期福岡県がん対策推進計画の進捗状況」について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明〕

(松田会長)

ありがとうございました。計画の進捗状況について説明いただきました。これについて、なにかご意見ご質問ありませんでしょうか。

無いようですので、次の議題に入ります。

議題(2)「第3期福岡県がん対策推進計画の中間評価」について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明〕

(松田会長)

ただいま、中間評価について説明いただきました。これについて、なにかご意見ご質問ありませんでしょうか。

コロナ禍でのがんの検診率を向上させるという非常に難しい時期ではありました。国の方針も当初はそうした方針でしたが、今はきちんと対応策をとってやるようにという方向になってきております。

やらなくていい理由というのは、簡単にすぐでできますが、どうやったらできるかの工夫といえますか、想像力というか、どういものかコロナ禍当初は分からなかったわけですね。そうした中で皆さん様々な努力をやってきたと、私自身思っております。

これから先、どういうふうながん検診率の向上を目指していくのか、何ができるのか、何をすれば向上するのかということを皆さんの助言を受けながら、協力しながらやっていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(前原副会長)

九州中央病院の前原です。中間評価は平成 30 年度から令和 5 年度までの 6 年間で、今回 3 年を目途にということで、行なわれたわけですが、実際評価を見ますと、評価が△のものがかかなりあるようですが、△の所は、今回評価をして努力していくといった場合、いつそれをまた評価していくのでしょうか。△が○になったというようなことは、また 3 年後になってしまうわけですか。それとも毎年度にその経過は見ていくのでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。毎年数値が取れるものについては、毎年把握していきたいと思いますが、今回用いた患者体験調査など、様々国が調査したものがございます。これは毎年ではなく、5 年後とかいうものもございしますので、そこで把握していきたいと考えております。

(前原副会長)

ということは来年ではないということですね。

(松田会長)

できるものについては毎年やっていくと、国の評価が出るのが 5 年後であれば、5 年後にという形になるということであります。

他にご意見ご質問ありませんでしょうか。

(辻委員)

2 頁の参考の表ですが、6 か年計画でやっているということでしょうけれど、平成 20 年度の死亡率と比べますと、胃や肝臓等はかなり減っている。これはご存じのとおりピロリ菌の除菌、B とか C の抗ウイルス剤の普及ということで、当然として見るのですが、子宮がんが逆に上昇している。HPV のワクチンが今話題になっています。肝炎のことは、このがん対策推進協議会の中で、しっかりとしてあると思うんですけど、そういう評価というのはこういう中に入ってくるのでしょうか。

がんの原因となるものをもっとしっかり治療したり、ワクチンを普及させるということも評価の中に入れて、肝炎の方はしっかり入ってるのでいいと思うのですが、今まだまだピロリ菌の除菌というのは、きちっと行われているわけではないので、そこはどうかと思ひまして。子宮がんはワクチンがありますので。

(松田会長)

今の質問は、治療がある、予防接種、ワクチンがあり、そういうものの実施率、そしてこの死亡率とリンクができるのかどうかと。事務局わかりますか。

あるいは、やってないのであれば、そういう紐づけというか、リンクをさせて、評価をしていって皆さんに公表すると、そういったことも必要だろうという辻委員のご意見だと思いますが、いかがでしょうか。

(前原副会長)

今のご発言、私も非常に重要な点だと思います。実際に当院の対応で申し上げます。子宮がんがなかなか減らない理由の一つとして、ワクチン接種が普及していないことも関係があるのではないかと考えています。当院では、福岡市南区の診療施設を対象とした Web セミナーの中に、婦人科では、子宮がんの制御にワクチンの接種が重要だということを講演に入れてもらっています。今後は、一般の方にも、啓発活動をすることが重要であると考えています。

(松田会長)

事務局いかがですか。がん対策推進協議会の意見としては、そういうことを踏まえて、きちんと県民に対して広報もしていくという方向でお願いしたいということによろしいでしょうか。

(田中がん感染症疾病対策課長)

ご意見ありがとうございます。どのようにできるのかこの段階ですぐにお答えすることはできませんけれども、しっかり勉強させていただいて、ご意見の趣旨に沿った形で進めさせていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

(前原副会長)

是非、婦人科がんの専門の方にお話して、いろんなご意見をお聞きしたらいかがかなと思います。九大の加藤教授や、当院の衛藤部長も婦人科腫瘍の専門ですから、そういう方に意見を聞いて、どうすべきかということ聞かれてはいかがかなと思います。

(松田会長)

産科婦人科学会も HPV ワクチンは、推奨するようになっていきますので、是非その辺をきちんとワクチンの接種を推奨する方向で、福岡県もやってくればなというところで、この協議会では、是非それを検討していただきたいという意見で、皆様よろしいでしょうか。よろしく願いいたします。

他にありませんでしょうか。

(藤委員)

まず、この中間評価を行った期日を確認させていただいてよろしいでしょうか。令和元年でしょうか。

(事務局)

指標につきましては、令和元年度に指標はこれでいくというように決めさせていただきました。令和2年度に中間評価を行う予定としておりましたが、今年度この協議会で中間評価をさせていただいております。今現状分かる最新値で指標の各数値をまとめさせていただきました。

(藤委員)

何が言いたいかというと、これはコロナの影響がある時期のものですよね。△がかなりありますのは仕方ないのですが、かつ△を全て〇にしようと努力も大切なことではあるのですが、コロナの影響があって△のものと、そうじゃなくて△のもの、メリハリつけて作業をしないと、なかなか全て一括で作業していくというのは、県としても協議会としても大変じゃないかという気がします。

従いまして、これはコロナが影響しているということになりますと、そこはペンディングにしていいとは申しませんが、今後の経過を見ていって判断してもいいところがあるかもしれませんし、これはコロナと関係が無いんだらうということになると、やはり△ではまずいだらうという認識を持って活動していく必要があるのではないかということです。各論でなく、大雑把な話ですが、そういう疑問を持ったので質問させていただきました。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。指標の現状値をとっているのが、令和元年度の数値が多く、一部資料の5頁の「No11 肝炎ウイルス検査の受検者数」につきましては、令和2年度分を現状値に含めておりますので、こちらについては、コロナの影響が少なからずあるというふうに考えております。

それ以外につきましては、ほぼ最新でも令和元年度の数値になっておりますので、特に影響は無いと考えております。

(藤委員)

わかりました。ありがとうございました。

(松田会長)

他に何かご意見ご質問ありませんでしょうか。

今回〇がついたところで評価がよかったところは、がんのリハビリテーションだとか、社会連携に基づくがん対策・がん患者の支援などがあります。これは、各医療機関や各団体の努力の結果だと、私自身は思っております。

それから17頁の「No85、がん診断後も仕事を継続していたがん患者の割合」、これがまだまだ低い。やはり、事業者に対してのアピールをどうやっていくのか、これが非常に大きなことではないかというふうに思います。

医療従事者だけが頑張っていくところでもないし、事業者の皆さんの、自分たちの検診率向上に関わってくることですよね。自分たちの仲間をどう大事にしていくのかということかと思っておりますので、県の方も拠点病院の先生方も、いろんなところに働きかけていただけたらというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

では、次の議題(3)「がん診療連携拠点病院等の推薦」について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明〕

(松田会長)

ただいま、がん診療連携拠点病院等の推薦について説明いただきました。これについて、なにかご

意見ご質問ありませんでしょうか。

現在、国は、令和5年度以降の指定に関する整備指針の改正について検討されているということがあります。来年度は新たな整備指針のもとでの本県における拠点病院の整備について議論することになると思いますので、よろしく願いいたします。

(前原副会長)

産業医科大学病院には、指定要件を伝えているのでしょうか。

(事務局)

高度型の指定要件がどういったものなのかということにつきましては、ご説明は以前からさせていただいているところで、産業医科大学病院につきましては、令和元年度の際にも高度型の新規申請をされたところであります。

今回新規申請をお受けしまして、今現状の診療実績の件についてお話しさせていただいておりますが、産業医科大学病院からは新規申請でいきたいというお話をいただきましたので、こちらで審議いただきたいと考えております。

(前原副会長)

産業医科大学病院に指定要件上難しいと伝える場合にも、丁寧に伝えていただけたらと思います。

(事務局)

ありがとうございます。丁寧に説明をさせていただきます。

(松田会長)

大学病院として要件を満たすために何が必要なのか、やっていっていただけたらと思います。

他にご意見ご質問ないので、協議を終わります。

次に報告事項として「小児がん拠点病院」について、大賀先生よろしく願います。

〔九州大学病院 大賀委員説明〕

(松田会長)

ありがとうございました。きちんとやっていただいているということで安心かと思えます。

これで予定していた議題は以上ですが、全体を通じて皆さまご意見ご質問ありませんでしょうか。

(山本委員)

がんの子どもを守る会九州北支部の山本です。少しご報告と今後の課題について、お話しさせていただきます。現在コロナ禍で患者・家族たちは、とても大変な思いをしております。大賀先生はじめ、拠点病院の先生方も大変ご苦労あることと思っております。

そうした中、私共「レモネードスタンド in ふくおか」を開催しておりまして、県民の皆さまから 100 万円

を超える募金をいただきましたこと、県民の皆さまの小児がんに対する意識の高さが段々を上がってきていることに私たちもうれしく思っています。

在宅療養支援と骨髄移植後の抗体を失った子どもたちのワクチン再接種についてですが、町村会の方に私共同いまして、お話をさせていただきました。まだ20市町村ほどではありますが、自分の住んでいる地域に助成が無いことで困っているご家族が増えつつもあります。これ以上増えてきますと、私共もどうしようかなということになりますので、全ての市町村が一斉に行うことに対して、県の担当課の方々も一層の努力をお願いしたいと思います。もちろん当会もそれをお手伝いさせていただきます。

今後についてですが、福岡子どもホスピス&ハウスというものが、休眠預金活用事業に採択され、設立に向け動きだしています。福岡県にも子供ホスピスというものを作らなければならないということで、当会の方も微力ながら協力して、設立に向けきちんとしたものができあがっていくために、皆さま方もご協力よろしくをお願いします。

また、国際小児がんデーが2月15日に迫ってまいります。その頃には県庁ロビー、それから嘉麻市教育委員会のお力添えもありまして、織田廣喜美術館の方で大きな啓発イベントを行うこととなりました。皆さまもよろしければ出向いていただけたらありがたいと思います。

(松田会長)

ただいま、がんの子どもを守る会九州北支部山本委員からご報告がありました。報告が全ての委員の方々に回るように、是非、事務局、県の方に情報を渡していただくとありがたいと思います。

皆で協力して福岡県のがんの診療、あるいは、生活をどう守っていくかなど、知恵を出し合っていていかなくてはいけないと思います。

それでは他にご意見ご質問ないようですので、事務局にお返しします。

(事務局)

松田会長、ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、長時間にわたり、熱心なご討議をいただき、誠にありがとうございました。本日、いただいたご意見を、本県の、今後の対策に活かしてまいりたいと思います。

それでは、これもちまして、「令和3年度第2回福岡県がん対策推進協議会」を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。